

損益計算書

国立大学法人の損益計算書は、教育・研究活動等の運営状況を明確にするための「活動成績表」です。授業料や国からの運営費交付金などの収入と、教育・研究・診療等にかかった費用を記載しており、1年間の活動状況がわかります。

国立大学法人の損益計算書は、単なる「収支報告」とは異なります。教育・研究という公共性の高い活動において、授業料や国からの運営費交付金といった貴重な財源がどのように使われ、どのような成果に繋がったかを示し、活動の透明性を担保するものです。企業の損益計算書が利益追求を示す一方、国立大学法人のそれは、社会への説明責任を果たし、皆さんの信頼を得て、より良い教育・研究環境のために未来へ投資する道筋を示しています。

2023年度 損益計算書 ハイライト

人件費高騰及び物価高により、4期ぶりの赤字

山口大学の事業規模の約6割を占める附属病院は、収益が増加したものの、物価高騰や改修工事で費用が大きく増加しました。これに加え大学全体の人件費を増額したこともあり、4期ぶりの赤字となりました。



国立大学法人会計基準の改定に伴う2022年度限りの臨時利益が無くなったことにより、前年度比で大幅に収益が減少しました。

前年比150億円の減益！

2023年度は前年度比150億円の減益となり、山口大学の経営に懸念を抱かれるかもしれません。しかし、このうち131億円は、実質的な経営悪化ではなく、会計基準の改定により、2022年度に計上していた臨時利益（返済不要な負債の一部）が無くなったためです。残り19億円は、物価高騰や病棟改修工事による費用増加が要因です。これらの状況を乗り越え、経営の効率化を徹底し、早期の黒字復帰を目指してまいりますので、引き続きのご理解とご支援をお願いいたします。

損益計算書

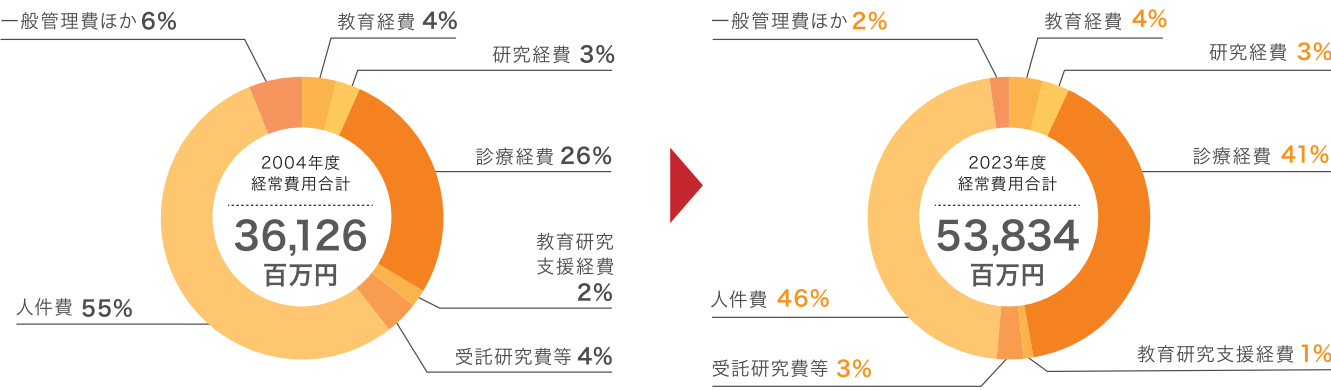
費用	単位(百万円)		
	2022年度	2023年度	増減
経常費用合計	51,405	53,834	2,429
業務費	50,056	52,732	2,676
教育経費	2,398	2,356	△ 42
研究経費	1,608	1,525	△ 82
診療経費	19,081	21,795	2,714
教育研究支援経費	940	794	△ 146
受託研究費等	1,608	1,524	△ 84
人件費	24,417	24,736	318
一般管理費	1,207	920	△ 286
その他	142	181	39
臨時損失	15	732	717
費用合計	51,420	54,566	3,146

収益	単位(百万円)		
	2022年度	2023年度	増減
経常収益合計	51,560	52,809	1,248
運営費交付金収益	11,957	12,131	173
学生納付金収益	6,120	6,064	△ 55
附属病院収益	26,648	28,478	1,830
受託研究等収益	1,701	1,738	37
受託研究収益	870	934	63
共同研究収益	430	440	10
受託事業収益	399	364	△ 35
寄附金収益	870	908	38
施設費収益	148	257	108
補助金等収益	2,960	1,955	△ 1,004
その他	1,153	1,274	121
臨時利益	13,208	87	△ 13,120
収益合計	64,768	52,896	△ 11,872

※単位未満切り捨てのため、合計は必ずしも一致しません。

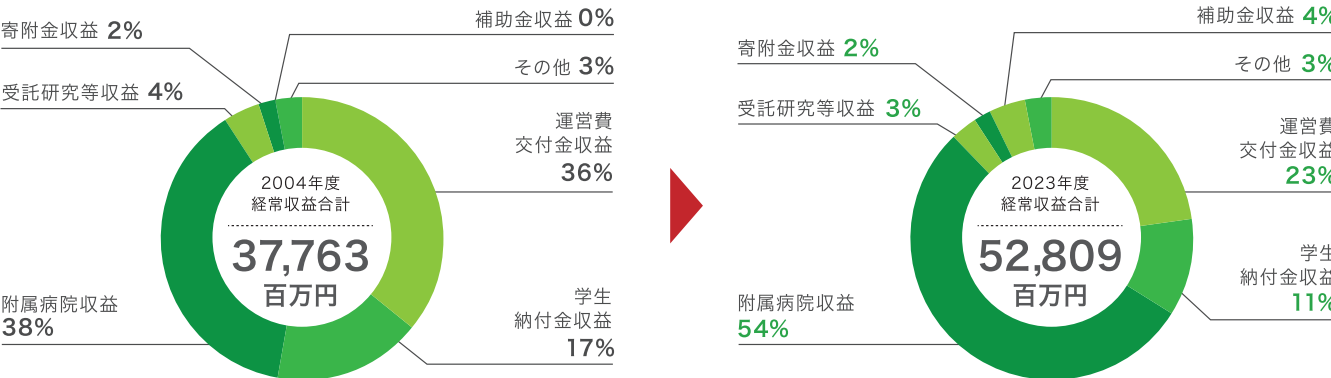
法人化後の経常費用の変化(2004→2023)

一般管理費の縮減を図り、効率的な法人運営に努めました。



法人化後の経常収益の変化(2004→2023)

附属病院の収益拡大に伴い、病院経営が法人の財務構造に大きな影響を及ぼします。



貸借対照表

国立大学法人の貸借対照表は、年度末における財政状態を示す「財産目録」です。建物や設備、現金といった資産と、借入金などの負債、そしてそれらを除いた自己資金（純資産）を一覧で示し、法人全体の財政基盤が分かります。

2023年度 貸借対照表 ハイライト

病棟改修工事により、資産・負債とも増加

医学部附属病院の改修工事を借入金で行ったため、建物と負債が大きく増えました。一方で、中長期的な財政基盤を強化し、将来の教育・研究・診療の発展につなげるため、本学の資金を安全かつ効率的に運用しています。



貸借対照表

資産	単位(百万円)	
	2023年度	前年度比
資産の部	103,265	863
固定資産	84,818	2,511
土地	15,157	0
建物・構築物	44,742	3,600
機械備品等	9,808	470
図書	7,407	7
建設仮勘定	4,137	△ 2,176
その他	3,565	610
流動資産	18,446	△ 1,648
現金・預金	11,536	△ 1,203
未収金	6,315	△ 498
その他	594	54

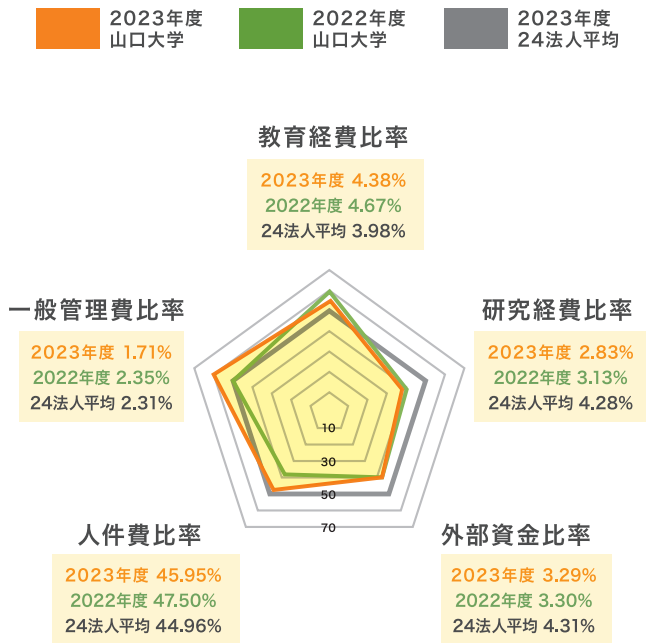
負債	単位(百万円)	
	2023年度	前年度比
負債の部	49,136	2,251
固定負債	30,993	2,986
長期繰延補助金等	1,196	△ 237
長期借入金	26,345	3,163
長期未払金	2,800	10
その他	575	52
流動負債	18,142	△ 735
寄附金債務	4,379	△ 138
借入金	1,467	231
未払金	9,430	△ 1,262
その他	2,864	433

純資産	単位(百万円)	
	2023年度	前年度比
純資産の部	54,128	△ 1,387
資本金	16,222	0
資本剰余金	10,168	982
利益剰余金	27,737	△ 2,370
(うち当期末処理損失)	△ 1,668	△ 15,072

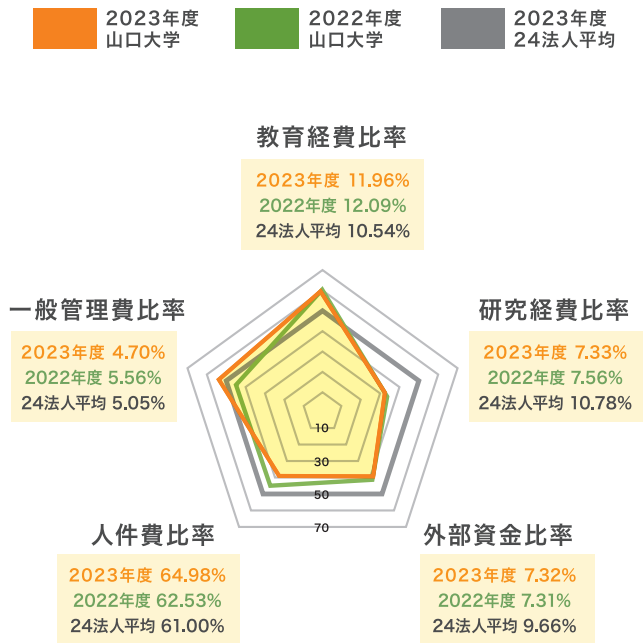
財務指標

山口大学の経営状況を、同系同規模の24国立大学法人の平均を50とする偏差値で評価しました。その結果、教育経費率や人件費比率が高い一方で、研究経費比率や外部資金比率が低いという特徴が見られます。

財務指標(病院セグメント含む)



財務指標(病院セグメント除く)



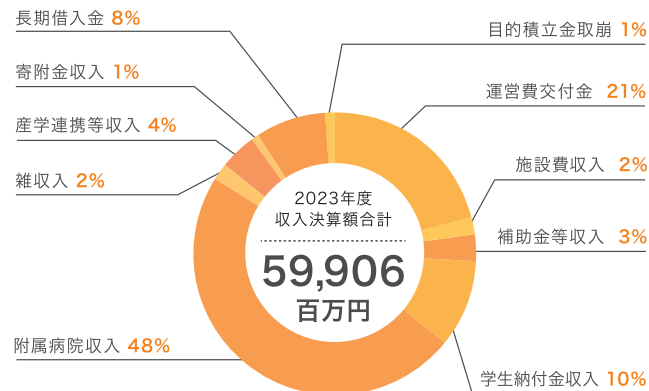
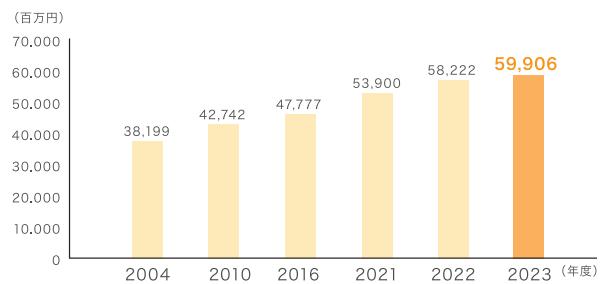
財務指標		指標の内容		評価
活動性・収益性	教育経費比率	教育経費／経常費用	経常費用のうち教育経費の占める割合はどうか。大学本来の活動のうち、教育活動に充当される直接費の割合はどうか。	一般的に高いほどよい
	研究経費比率	研究経費／経常費用	経常費用のうち研究経費の占める割合はどうか。大学本来の活動のうち、研究活動に充当される直接費の割合はどうか。	一般的に高いほどよい
発展性・成長性	外部資金比率	(受託研究収益＋共同研究収益＋受託事業収益)／経常収益	経常収益のうち外部から獲得した資金(寄附金を除く)の占める割合はどうか。	一般的に高いほどよい
効率性	人件費比率	人件費／経常費用	経常費用のうち人件費の占める割合はどうか。人件費を抑え、学生向けの教育サービスの質的向上や必要な研究経費が十分確保されているか。	一般的に低いほどよい
	一般管理費比率	一般管理費／経常費用	経常費用と一般管理費との割合はどうか。管理経費を抑え、効率よく法人経営されているか。	一般的に低いほどよい

収入決算額の推移

山口大学の収入（現金ベース）について、法人化当初（2004年度）から2023年度までの推移をグラフにしました。

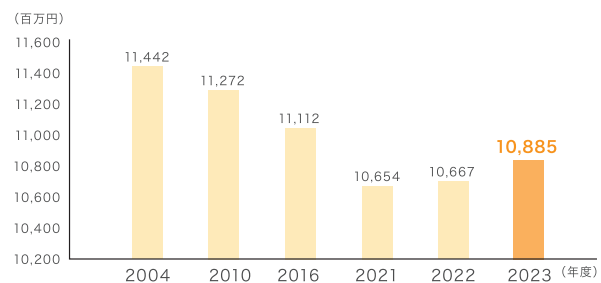
総収入

◇決算報告書の総収入



収入の内訳

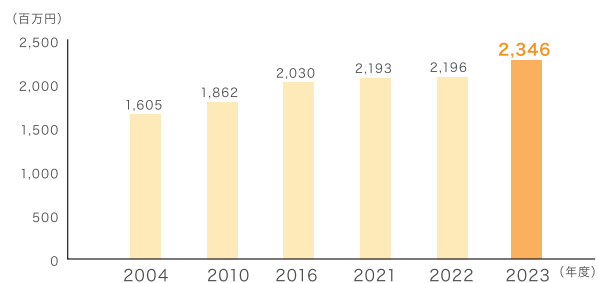
◇運営費交付金収入



POINT

運営費交付金収入は、国の削減方針により、法人化当初に比べて大きく減少しています。近年は減少傾向が下げ止まり、特に2025年度は設備費の獲得に尽力した結果、前年度比で増加しました。

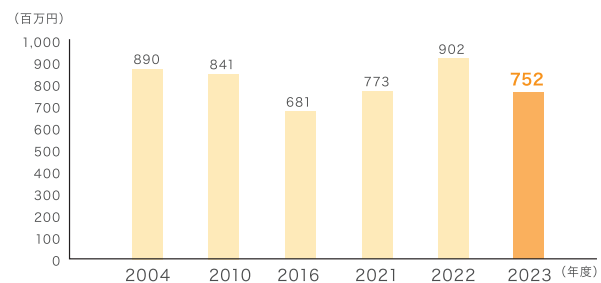
◇産学連携等収入（補助金に係る間接経費含む）



POINT

産学連携機能の強化は、収入の増加という形で成果を上げています。一方で、研究経費および外部資金が他大学と比べて少ないことが本法人の課題です。このため、今後も外部資金の獲得に注力し、研究の一層の推進と経営基盤の強化を目指します。

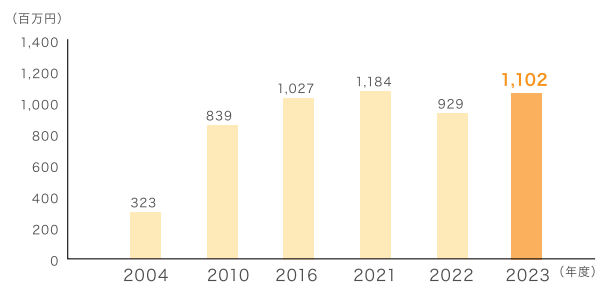
◇寄付金収入



POINT

2015年に創基200周年を記念して山口大学基金を創設するなど、近年は寄附金獲得に注力しています。皆様からの寄附金は、人材育成や研究活動に活用し、その成果を社会へ還元することで、地域・日本の発展に貢献できるよう、引き続き獲得に努めてまいります。

◇その他の収入



POINT

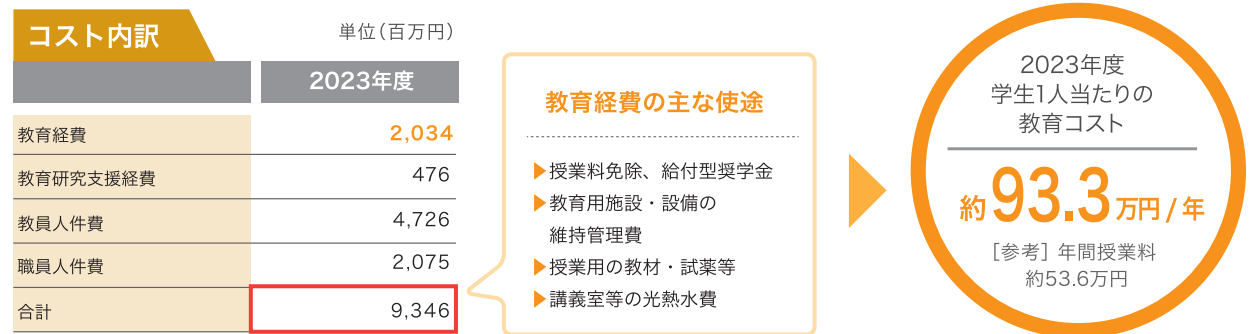
動物医療センターの運営、土地・建物の貸付、特許権の活用などにより収入を得ています。教育・研究活動の一層の充実を図るため、財源の多角化と収入増加に、今後も積極的に取り組んでまいります。

その他財務トピックス

ステークホルダーの皆様からご支援いただく様々な資金のうち、「授業料」、「間接経費」、「施設利用料」をピックアップし、その用途等をご紹介します。

1 学生1人当たりの教育活動に要する経費

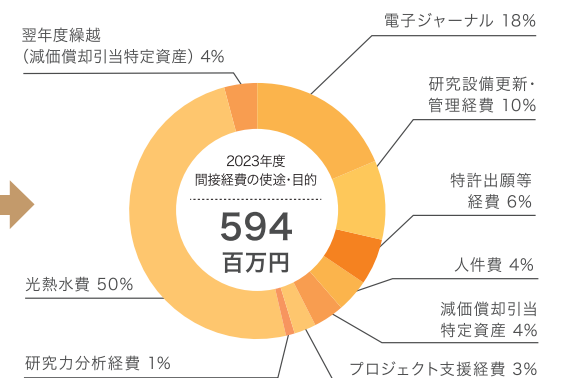
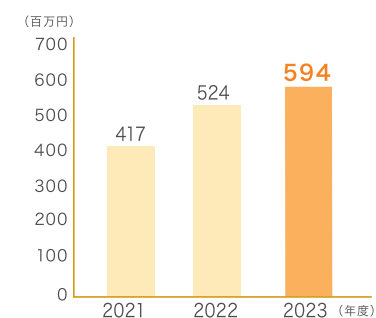
学生の年間授業料は約53万円ですが、教員人件費、図書館費、教育に必要な物件費などを合わせると、学生1人当たりの教育活動経費は約93万円となります。授業料で賄いきれない差額分は、主に運営費交付金や寄附金、補助金などで補填しています。



2 間接経費とは？

間接経費とは、研究に必要な費用（直接経費）とは別に、研究室の電気代や設備の維持費、事務員の人件費など、研究活動を支える大学全体の運営費用のことで、国や共同研究企業に一定比率をご負担いただいています。これにより、より良い研究環境の整備や大学機能の向上が図られています。

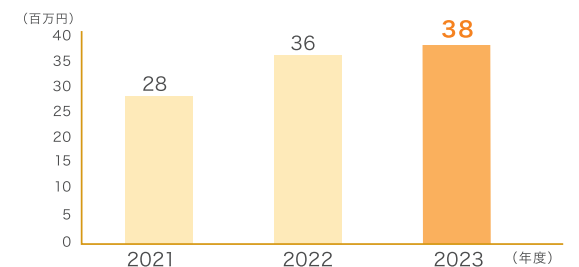
◇間接経費受入額の推移



3 資産の有効活用

山口大学では、保有資産を有効活用し、財源の多角化を進めることで、安定した大学運営を目指しています。例えば、総合科学実験センターの研究用機器を学外企業にも開放し、収入増加を図るとともに、産学連携の強化にも繋げています。

◇総合科学実験センター利用料



山口大学の財務情報についてさらに詳しくお知りになりたい方はWEBサイトをご覧ください →

財務に関する情報



入札関連情報

